

|                  |   |
|------------------|---|
| 介護をめざすミャンマーの女性たち | 1 |
| 身体性感覚のよみがえる他力    | 2 |
| 川端康成と「末期の眼」      | 3 |
| 仏教の生死観           | 4 |

同朋大学 “いのちの教育” センター  
〒453-8540 名古屋市 中村区 稲葉地 町7-1  
TEL 052-411-1373  
Eメール宛先 inochi@doho.ac.jp

## ● 同朋大学 “いのちの教育” センターだより

2017年度も、前年度にひきつづき、「いのちの教育」をテーマに連続講座を開催いたしました。全5回の講座のうち、第1回は安藤弥「無量寿の世界」という内容で開催し、前号にその要旨を掲載いたしました。今号は、第2～5回の4つの講座の要旨を紹介いたします。

# 2018.3.31 No.47

## 介護をめざすミャンマーの女性たち

村上 逸人

わが国の介護施設では介護職員をはじめ働き手が不足する状況にある。国立社会保障・人口問題研究所によると「日本の将来推計人口」は2065年に8,808万人になり、15歳から64歳の労働力人口は4,529万人の見通しを発表している。こうした働き手が不足するなかで、介護サービスを継続するために、残業や無理をする職員も出てくる。そうした状況は短期間であれば何とかしのぐこともできるが、長期化すれば貴重な介護人材の流失や利用者との介護トラブルを生むことになる。

わが国の介護施設で働いている外国人は、主に3つの類型がある。EPA（経済活動連携協定による特例的受け入れ）、介護福祉士資格を取得した留学生、技能実習（日本から相手国への技能移転）の3つである。H28年10月末現在、国内で就労する外国人は108.3万人いる。その内訳は①専門的・技術分野（教授、医師等）20万人、②日系人、永住者、日本人配偶者が41.3万人、③技能実習（H22年7月～）21.1万人、④特定活動（EPA、ワーキングホリデー）1.8万人、⑤留学生のアルバイト20.9万人の5つに分けられる。そうしたなかで2017年に、出入国管理及び難民認定法が改正され、在留資格に「介護」が加えられた。その流れを受けて、老人ホームの業界団体は高度専門職として認識されたと判断し、介護福祉士資格を取得した

者に在留資格を保証するよう求めている。

さてA市内のある施設では、人員不足の介護現場に外国人技能実習生を受け入れようとしている。人事担当者がミャンマーへ頻回に渡航し、2年以上の月日をかけて来日につなげようとしている。アウンサンスーチー氏が国家顧問に就任したミャンマーは、民主化と解放が進み、リープフロッグ（かえる跳び）の国と呼ばれるほど社会が変革している。そうはいつでも一般庶民は経済的に困窮し、日本で働くことに大きな期待を寄せている。そのためミャンマーから来日を決めた彼女も日々の努力を重ね、日本語検定N3を取得している。彼女は現地の公文式教室で助手として働き、日本語力に磨きをかけながら来日の日を心待ちにしている。いま彼女が開いた道を歩もうと学んでいる女性たちが、かの地にいる。

わが国は人口減少と団塊の世代の介護問題もあり、介護職員不足が危惧されている。そうした状況を、彼女たち外国人の手を借りてでも対応していかなければならないところまできている。彼女らは日本で働きながら介護を学ぶが、いずれ帰国を選択するかもしれないが、日本で育った人材が母国でその腕を振るうことは、外国人材とともにグローバル時代を拓き、国際親善と共生の一步になると期待している。

（本学 社会福祉学部社会福祉学科 准教授）

# 身体性感覚のよみがえる他力

大住 誠

森田療法は日本人によって創始された精神療法であり、その理論背景には仏教思想が存在します。森田療法の創始者である森田正馬は、不安を主な要因とする神経症等の「こころの病」の症状は、患者自身の症状を取り除こうとする努力によって、注意、関心が症状に向かいすぎ、かえって強化されてしまうものと考えました。そしてこの悪循環を「精神交互作用」と名付けました。「精神交互作用」とは私達の日常語では「執われる」という用語に該当するものであり、仏教用語の「我執」に由来するものです。「我執」とは自分自身に執着することであり、この場合には、自我への過剰なこだわりという内容が含まれます。

そこで、治療方法では、以上のような患者の症状に対する意図的・意識的な心理的傾向を遮断することが何よりも求められるのです。具体的には、意図的・意識的な心理傾向と関連のある観念的に思考することへのこだわりや、気分（感

情）に振り回されることを止めて、身体性感覚を外界に開くような生活習慣を身につけることが重視されます。これを「気分本位の生活」から「行動本位の生活」への転換といいます。たとえば「不安感」「心配」「抑うつ」「強迫観念」などに苦しみつつも、極力思考することを止めて今やらねばならない仕事や作業に従事して、五感を外界に開いていけば、症状に対して意図的・意識的になることが遮断され、「とらわれ」を離れることができるようになります。

このように「とらわれ」を離れ、症状のまま行動できるようになることが森田療法の治療目標であり、これを森田は「あるがまま」の境地と名付けました。それは、自我よりも深い集合無意識が賦活することであり、自我意識（自力）の立場からは「他力」としか表現出来ないような事実であると筆者は考えます。

（本学 社会福祉学部社会福祉学科 特任教授）

# 川端康成と「末期の眼」

三川 智央

「末期の眼」という言葉を最初に用いたのは芥川龍之介だった。彼は、遺稿となった『或旧友へ送る手記』の中で、死を覚悟した自らの眼差しを「末期の目」と呼び、その目に映る自然は一層美しいと記した。川端康成は、芥川の自殺に対しては共感しなかったが、この「末期の目」には共鳴する何かを感じたものと思われる。昭和8年、『末期の眼』と題する随筆を執筆し、「あらゆる芸術の極意は、この『末期の眼』であろう」と述べた。また、昭和43年、ノーベル文学賞受賞の際の記念講演『美しい日本の私』においても、「末期の眼」に言及している。

そもそも、「死」と向き合う極限的状況の中で、だからこそ、むしろ輝きを増すともとれる「美」の存在を、鋭く意識するという独特の感性は、川端自身にかなり早くから備わっていた。数え年で16歳の時に書いたとされる日記には、唯一

の肉親である祖父が「死」に近づく姿が克明に描かれているが、その中には、「苦しい息も絶えそうな声と共に、しびんの底には谷川の清水の音」というような表現が存在する。川端は、芥川の言葉によって、このような自らの感性を「末期の眼」としてあらためて意識し、その後の創作活動を展開して行ったと考えられる。

『末期の眼』の執筆と同じ昭和8年、川端は小説『禽獣』を発表。その後、昭和10年から連作小説『雪国』を発表するが、こうした作品に表出する川端独特の「美」は、いずれも「死」と隣り合わせであることによって輝きを増している。また、この特徴は、戦後に発表された小説『古都』においても指摘することができる。「末期の眼」という視点から、川端文学の本質に迫ることができるかもしれない。

(本学 文学部人文学科 専任講師)

# 仏教の生死観

市野 智行

「四苦八苦」という言葉は一般的には「さんざん苦勞すること（広辞苑）」というような意味で使われています。実はその語源には、釈尊の出家が大きな関わりを持っています。晩年に釈尊は自身の出家の動機を次のように回想しています。「私自身、老いるもの・病むもの・死ぬものであり、そのことを避けられない身である。そうでありながらなぜ他者の老病死を見て嘲り厭ったりするのであろうか。」老病死とは誰の上にも平等にやってきます。言い換えれば老病死とは生きる上で「あたりまえ」のことです。きっと人はそのことを「頭」では理解しているのでしょうか。しかし、いざその「身」の上に老病死の現実が迫ってくるとなかなか受け入れることができません。そこに苦しみが生じるのです。その苦しみから目を背けずに対峙する道を選び求めたのが釈尊であり、その第一歩を出家と呼びます。

生死について「あたりまえ」という視点で考えるとき、いつも思い浮かぶ仏教説話があります。童話作家の浜田広介が著した『三本の蠟

燭』の素地になっているとも言われている「けしの実（キサーゴータミー尼の告白）」です。子を亡くし悲しみに暮れる母に対し、釈尊は葬儀を出していない家庭から「けしのみ」を貰ってくるように言います。キサーゴータミーは何軒も何軒も回りますが、葬儀を出したことの無い家などありません。その中でキサーゴータミーは子の死を受け止めていくのです。ここには二つの「あたりまえ」が説かれています。一つは、人は誰もいつか命終わらなければならないという「あたりまえ」です。これは良く分かるのではないのでしょうか。もう一つは、人は生きて亡くなっていくという「あたりまえ」です。「死」を単に人生の「終わり」という一点で切り取っていくとき、私たちはその人が「生きて」亡くなっていったというあたりまえを見失ってしまいます。「生きて亡くなった」ことに眼を向けるとき、はじめて私たちは亡き人から多くの事を学ぶことができるのではないのでしょうか。

(本学 文学部仏教学科 専任講師)

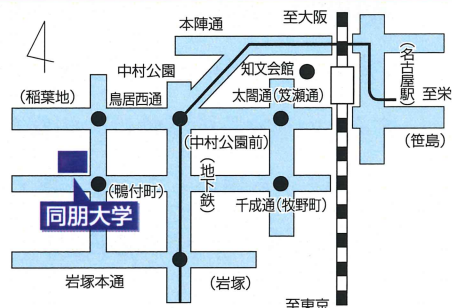
## 所 員

- センター主幹：安藤 弥 (文学部 教授)  
所 員：田代 俊孝 (文学研究科 教授)  
所 員：木野美恵子 (社会福祉学部 教授)  
所 員：森村森鳳(張 偉) (文学部 准教授)  
所 員：石牧 良浩 (社会福祉学部 准教授)

### お問い合わせ先

同朋大学 “いのちの教育” センター  
〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1  
☎ 052-411-1373

### 同朋大学 周辺地図



交通 市バス/栄又は笹島より④系統稲西車庫行、鴨付町下車  
地下鉄/中村公園より⑬系統稲西車庫行、鴨付町下車